

■目次

平成28年熊本地震に関する総長談話・災害義援金のお願い
平成28年熊本地震 浄土真宗本願寺派熊本地震支援センター設置について・1

●今月のことは……………佐々木哲生・2

●表紙のことは……………大橋 功・3

「ダンゴ虫のたんけん」……………大橋 功・3

●巻頭言
どこでも、だれとでも、
いつでも大丈夫な子どもたち…松本エリック達雄・4

●わたしの保育物語
子どもたちに支えられて……………工藤 範子・6

●いま、学ぶ、越える
受容すること……………土岐 遥・8

●園児向け法話
聖徳太子さまとほとけさま……………阿部 信親・10

●仏典童話
ひと言のわざわい……………野呂 昶・12

●園長のつぶやき
大人の背中……………立山 正道・16

●食育アラカルト・北から南から
遍照幼稚園「前編」……………涌水 英昭・18

●保育者の心に寄り添うカウンセリング⑤
「ざっくり」から「じっくり」……………富田富士也・20

●なぜ？なぜ？先生
保育に急いだ一年生…主任……………20

●どうしてお焼香をするの？……………22

●仏教讃歌
ぼくののののののののの……………石川紀久子・23

●「まごとの保育」のすすめ……………26

●未熟だからこそ成長できる……………海谷 則之・26

●教区たより
京都教区保育連盟の活動について……………深澤 素子・30

●「まごとの保育」に役立つ仏教讃歌集「聖歌・讃歌集こども編」……………32

「ダンゴ虫のたんけん」

三宅 悠稀 (みやけ ゆうき) 5歳

神辺千鶴幼稚園
(備後教区)

●表紙のことは●



おおはし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科

画面中央に大きなダンゴ虫が描かれています。太い線で大胆に描く一方で、細かくたくさんある足や、頭から生える二本の触角、殻の重なりによる線など、ダンゴ虫の特徴を繊細に表現しています。とりわけ足の表現では、先端を用いて細く描くなど、筆を工夫して使っています。おそらく材料や用具の経験も豊富なのでしょう。新しく出会った墨の濃淡にも驚きを持って気づきながら表現に活かすことができているようです。

絵を描くために対象を観察させ、再現させようとしてもこうはいきません。日々の生活の中でゆうき君がいかにダンゴ虫に興味関心をもつて遊んでいたのかがわかります。墨で描いた後、パスで「これエサなんよ」と美味しそうなお食べ物をたくさん描いてあげています。ゆうきくんにとって、ここに描かれたダンゴ虫は生きています。ダンゴ虫の姿形を再現しているのではなく、想像の世界の中で「いのちのつながり」を実感しているのです。